

令和7年度 地域と学校の連携・協働体制構築事業

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	これまでの取組状況	左記課題の解決のために令和6年度に実施する具体的な取組	本事業で達成する目標(アウトカム)	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位	本年度の目標値
松山市	③学校と家庭の課題	家庭等における学習習慣の定着	本市の児童の学校以外での平日1日当たりの勉強時間は、全国水準は上回っているものの、減少傾向にある。	昨年度は、地域のボランティアの方の協力を得て、全教室累計で、平日約2,900日の宿題の見守りなどの活動を実施できた。	放課後等に小学校や公民館などを活用して、地域のボランティアの協力を得て、地域の実情に応じた回数(全教室累計で、2,800日程度、1教室平均で週1回以上)で、宿題の見守りを実施	学校以外で日常的に学習する児童が増える。	放課後子ども教室で、勉強する習慣がついたとする児童の割合(市教育委員会のアンケート調査)	45	%	50
松山市	③学校と家庭の課題	放課後等における多様な体験活動	地域行事への参加に関する水準は、全国的な水準を上回っているが、自然の中で遊ぶなどの経験については下回っている。	昨年度は、地域のボランティアの方の協力を得て、土日や学校の長期休業などの機会を捉えて、全教室累計で、340日程度、自然と触れ合う活動や地域行事への参加など多様な活動を実施できた。	放課後や学校の休業日に、放課後子ども教室で地域のボランティアの協力を得て、地域での自然探検や農業体験、地域行事への参加などの多様な活動を、実施(全教室平均で、全活動日の1割程度となる390日程度)	自然体験や地域の行事への参加など多様な体験を楽しいと感じる児童が増える。	放課後子ども教室での普段できない体験が楽しいと感じた児童の割合(市教育委員会のアンケート調査)	36	%	40
松山市	②学校と地域の課題	学校支援ボランティアの確保・育成	ボランティアの確保が難しい地域もあり、地域学校協働活動を推進していくためには、継続的にボランティアの確保に取り組んでいく必要がある。	昨年度は、地域学校協本部の整備を行った4地区で、地域のボランティアの方の協力を得て、地域学校協働活動に取り組むことができた。	地域学校協働本部を整備した地区等で、継続的に、授業の補助や登下校の見守りなどの活動を実施し、多くの地域の方にボランティアとして学校に関わっていただく機会を設ける。	多くの方に継続的にボランティアとして学校に関わっていただくことで、学校への協力活動を実施できるボランティアの確保等に繋げる。	地域学校協働活動に関わっていた地域住民の人数(年間延べ)	26681	人	27500